

IPL-98/IPL-150

Li-ion V-Mount Battery PowerLink



取扱説明書

Lithium Ion



このたびは、IPL-98/IPL-150をお買い求めいただきましてありがとうございます。IPL-98/IPL-150は放送用ビデオカメラおよび業務用機器に使用する充電式のリチウムイオンバッテリーです。ご使用に際しては本書をよくお読みいただき、基本的な取扱い方法や注意事項をご理解された上で安全にお使いください。お読みになられた後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくための注意

本バッテリーは取扱いを誤りますと、破裂・発火・発煙・発熱・漏液の恐れ、または性能低下や故障の原因となりますので、下記の禁止および注意事項を必ず守ってください。

⚠ 危険：死亡や重傷を負う危険が切迫して生じることがあります。

- 充電は専用充電器以外、使用しないでください。
- 本バッテリーは放送用ビデオカメラおよび業務用機器専用です。その他の用途で使用する場合は、必ず弊社にご相談ください。
- 端子間を金属類でショートさせないでください。また、金属製のものと一緒を持ち運んだり、保管しないでください。
- 火の中に投げたり、加熱しないでください。
- 水、海水、飲料水などで濡らしたり、水中に投げないでください。
- 車内や炎天下など、高温になる場所に放置しないでください。また、使用温度範囲を超えた環境で充電、放電、保管しないでください。
- 端子に直接半田付けしないでください。
- 分解したり改造したりしないでください。
- 落下させたりハンマーで叩くなど、強い衝撃を与えないでください。また、重いものを載せたり圧力をかけないでください。
- 鋭利なもので刺したり、傷つけたりしないでください。また、損傷が著しい場合は使用しないでください。
- 腐食環境（塩害、海水、酸、アルカリ、腐食ガス等）では使用しないでください。また、極端な高湿度環境でも使用、保管しないでください。

⚠ 警告：死亡や重傷を負う危険が生じる可能性があります。

- 高温や高負荷で使用した後は、ケースが熱くなることがありますので注意してください。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、直ぐに充電を中止してください。
- 充電や放電中に異臭を発したり、異常な発熱や変色、変形など通常と異なる症状が見られる場合は、直ぐに使用を中止してください。
- バッテリーから漏液したり異臭がした場合は、直ぐに火気より離してください。
- 万一、漏液した液が皮膚に付着した場合は、直ちに石鹸を使用して水で十分に洗浄してください。
- 万一、漏液した液が目に入った場合は、擦らず直ちにきれいな流水で15分以上洗浄し、医師の治療を受けてください。

⚠ 注意：けがや物品損傷が生じることがあります。

- 必ず弊社指定の充電/放電条件を守ってください。
- 涼しく乾燥した場所で保管してください。
- 長時間使用しない時は、機器から取り外してください。
- 帯電物や静電気の発生する場所に接触、接近させないでください。
- 端子は、常にきれいな状態で使用し、汚れや異物が付着したら乾いた布で拭き取ってください。

⚠ ご使用時の重要事項

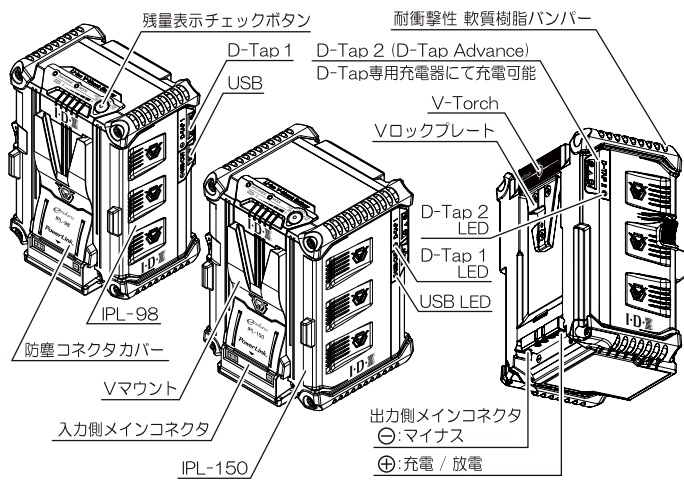
- ご購入後、初めてお使いになる場合は、必ず満充電にしてからお使いください。
初回充電時に満充電になる前に充電をやめた場合、チェックボタンを押すと残量表示LEDの中央が点滅します。満充電後は通常の残量表示となります。
- 10日以上ご使用されないときは、自動的に出力をOFFします。再使用時は、チェックボタンを押してから充電またはご使用ください。
- PowerLinkはIDX製Endura Vマウントバッテリーのみが接続可能です。Imicro-98/Imicro-150バッテリーや他の機器(A-Vmicro2/AC-100/A-E2NP等)または、他社製バッテリーは絶対にPowerLinkしないでください。
- ご使用されないときは、PowerLinkせずに単体の状態で保管してください。
- 長期保管の場合は、定期的に(2ヶ月に一度程度)充電して残量表示LEDが2個点灯する程度の充電状態を保ってください。

特徴

- 小型・軽量で、高容量
- 高品質・高信頼性のリチウムイオン電池を使用
- 最大4個のIPL-98/IPL-150バッテリーをPowerLinkして大容量のバッテリーとして使用できます。また専用充電器を使用すればPowerLinkした状態で充電が可能です。【PowerLink】※
- ビデオカメラによってはビューファインダーでバッテリーの容量を%(パーセント)表示又は残時間表示できます。【Digi-View/通信設定】※
- バッテリーの運用・管理が容易にできる機能 Battery Management System(略称 BMS)を内蔵しているため、弊社専用充電器でバッテリーの状態を確認できます。【Battery Management System】※
- 5個のLEDで放電時は10段階/充電時は5段階の容量表示をします。【残量表示LED】※
- 2つのD-Tap出力が付いています。D-Tapはバッテリースルー出力します。また、弊社D-Tap専用充電器でD-Tap2から本バッテリーを充電できます。【D-Tap】※
- USB出力が付いています。USBを電源とするポータブル機器にご利用いただけます。【USB】※
- V-Torch(LEDライト)搭載。背面のLEDライトが10秒間点灯します。暗い場所でのバッテリー装着の際に便利です。【V-Torch】※
- 放電電力が最大放電電力に近づいた場合、D-Tap/USBの出力を止めてメインコネクタの出力を優先することができます。【アクセサリカットオフ】※
- 内部構造は一つずつのセル(電池)を保護し強度の優れたハニカム構造のセルブロックで構成され、外部筐体には落下や衝突時に接触頻度の高いコーナー部分に弾力性のある軟質樹脂バンパーを装備することで総合的に高い強度構造と安全性を確保しております。

※印は各項目別に詳しい説明がありますのでご覧ください。

各部名称



保護回路

- 本バッテリーには、安全にご使用いただくために過充電/過放電/過電流/温度保護機能を有しています。高温/高負荷でご使用された場合ヒューズが溶断し復帰しなくなる場合がありますので最大放電電力/電流を超えないようにお使いください。
- 放電時に電池温度が80℃になると放電を停止します。60℃以下になると放電を再開します。
- 過放電保護が作動した場合は速やかに充電を行ってください。充電せずに放置すると使用できなくなる恐れがあります。
- 最大放電電力/電流を超えて使用した場合出力は停止し、チェックボタンを押すと残量表示LEDが点滅します。機器から取外して60秒お待ちいただいた後にチェックボタンを3秒以上押すことで保護が解除できます。

充電

- 本バッテリーの充電は、必ず弊社リチウムイオン対応充電器を使用し、他社製の充電器では充電しないでください。充電方法については、各充電器に添付されている取扱説明書をご覧ください。
- 充電時間は、充電電流やバッテリーの使用状況などにより異なります。充電時間は弊社ホームページをご覧ください。
- バッテリーの性能を十分に発揮するには、10～30℃での充電をお勧めします。
- 使用温度範囲内で充電してください。使用温度範囲外で充電した場合はセルの劣化原因となる場合があります。
- バッテリーには自己放電がありますので、使用する前に充電してお使いください。
- アクセサリーケーブルC-NP2E、C-VAL2Eを使用しての充電はできません。

⚠ 注意

本バッテリーは、安全性をより重視するためにバッテリー内部温度が0℃未満または40℃を超えた場合、充電できません。バッテリー使用中に内部温度が上昇することは異常ではありませんが、使用後すぐに充電を開始すると、内部温度が40℃を超えているために充電器がエラー表示し、充電ができない場合があります。また、環境温度が40℃以上の場所や0℃以下の場所に放置・保存した場合、同じく充電器がエラー表示し充電ができない場合があります。このような場合は、バッテリー内部温度による保護回路が働いて、一時的に充電を受け付けなくなっているだけですので、バッテリー・充電器の故障ではありません。一定時間お待ちいただき、バッテリーの内部温度が0℃～40℃になってから改めて充電を行ってください。

※バッテリーの内部温度が0℃未満または40℃を超えている場合、残量表示チェックボタンを押すと残量表示の後、5つのLEDが同時に2回点滅します。充電可能温度になればアラームは解除されます。

温度による充電禁止を知らせるアラーム

チェックボタン	残量表示LED	表示/操作設定
2.5秒	● ● ● ● ●	容量表示
2.5秒	● ● ● ● ●	温度による充電禁止アラーム表示

●点灯 ○消灯 ●点滅

バッテリー内部温度が放電終了後から40℃に下がるまでの時間の目安 (環境温度: 約25℃)

IPL-98		IPL-150	
放電負荷電力	目安時間	放電負荷電力	目安時間
80W	30分	80W	25分
95W	35分	95W	35分
120W	45分	120W	45分

放電

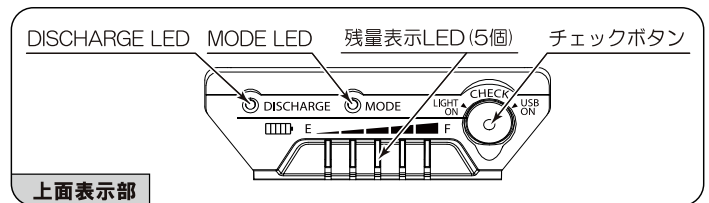
- メインコネクタ、D-Tap、USBに接続する機器の総消費電力がバッテリーの最大放電電力以下であることを確認してからご使用ください。最大放電電力を超えて使用した場合、安全のための保護回路が作動し放電が停止することがあります。また極端な性能劣化の原因になります。過負荷により内蔵されたヒューズが溶断した場合は復帰しません。
- 低温環境ではバッテリーの放電特性が著しく低下し、電源が入らない場合や使用時間が短くなる場合があります。
- 高温環境ではバッテリーの寿命が短くなりますので10～40℃での使用を推奨します。
- 本バッテリーの放電終止電圧は11Vですが、バッテリーの寿命を延ばすためには12V以上で放電を止めることをお勧めします。ただし、PowerLinkして使用した場合、放電中のバッテリー電圧が低下すると、前段のバッテリーの放電に切り換ります。
- トランシーバーなどを使用する場合は、バッテリーから遠ざけてご使用ください。電波の影響を受けて放電が停止することがあります。
- 使用後は必ず機器から取り外してください。待機電力の大きい機器に接続したままにするとバッテリーの残容量が低下して過放電保護が作動する場合があります。
- 本バッテリーを直列接続して使用しないでください。故障、破損の原因となります。
- 放電などによりバッテリー電圧が低下している場合、チェックボタンを押すと残量表示後に中央と右側のLEDが点滅します。充電によりバッテリー電圧が高くなればアラームは解除されます。

バッテリー電圧低下を知らせるアラーム

チェックボタン	残量表示LED	表示/操作設定
2.5秒	● ● ● ● ●	容量表示
2.5秒	● ● ● ● ●	バッテリー電圧低下アラーム表示

○消灯 ●点滅

残量表示 LED



- 5個のLEDで放電時は10段階、充電時は5段階の現在容量を表示します。
- チェックボタンを押した時に2.5秒間残量に応じてE⇒Fの順番に点灯/点滅で以下の通り表示します。また放電開始時も2.5秒間以下の表示を行います。

状態・残量	残量LED表示				
	E	●	●	●	F
残量: 0%~9%	●				
残量: 10%~19%	●				
残量: 20%~29%	●	●			
残量: 30%~39%	●	●			
残量: 40%~49%	●	●	●		
残量: 50%~59%	●	●	●		
残量: 60%~69%	●	●	●	●	
残量: 70%~79%	●	●	●	●	
残量: 80%~89%	●	●	●	●	●
残量: 90%~100%	●	●	●	●	●

●点灯 ●点滅

- 充電中は以下の表示を行います。

状態・残量	残量LED表示				
	E	●	●	●	F
残量: 0%~19%	●				
残量: 20%~39%	●	●			
残量: 40%~59%	●	●	●		
残量: 60%~99%	●	●	●	●	
残量: 100%	●	●	●	●	●

チェックボタン操作

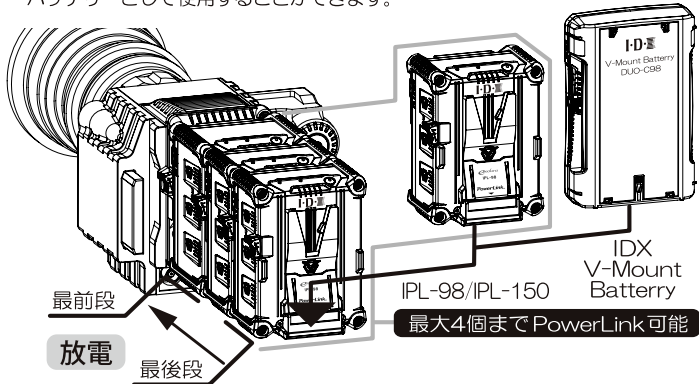
- チェックボタンで残量表示/USB ON/通信モード切替/アクセサリカットオフ機能切替の操作ができます。

チェックボタン	残量表示LED E ● ● ● F	MODE LED	表示/操作設定
↓	○ ○ ● ○ ○	●	初回充電時に満充電になる前に充電を止めた場合、チェックボタンを押すと残量表示LEDの中央が点滅
↓	● ● ● ○ ○	●	2.5秒間 残量表示
↓	○ ○ ○ ○ ○	○	チェックボタンを3秒以上長押しでUSB ON
↓	○ ○ ● ● ●	○	
↓	○ ● ● ● ●	○	
↓	○ ○ ○ ○ ○	○	チェックボタンを6秒以上長押しでMODE LED点滅中にチェックボタンを離して再度押しすと通信モード切替 (SB: 橙色 / IB: 緑色)
↓	○ ○ ○ ○ ○	●	
↓	○ ○ ○ ○ ○	○	
↓	○ ○ ○ ○ ○	○	チェックボタンを9秒以上長押しで残量表示LED点灯/点滅中にチェックボタンを離して再度押しすとアクセサリカットオフ機能切替 (●点灯: 有効 / ●点滅: 無効)
↓	○ ● ● ● ●	○	
↓	○ ● ● ● ●	○	

●点灯 ○消灯 ●点滅

PowerLink

- 最大4個のIPL-98/IPL-150バッテリーをPowerLinkすることで容量の大きいバッテリーとして使用することができます。



- 接続機器への放電中でも電力供給が途切れることなく最後段のバッテリーを取替えることが可能です。
- IPL-98/IPL-150以外のIDX製Vマウントバッテリーも最後段にPowerLinkして使用することができます。PowerLink可能なバッテリーは以下の通りです。

デジタルバッテリー (通信機能あり) ※	アナログバッテリー (通信機能なし)
DUO-C198 DUO-C150 DUO-C98 DUO-150 DUO-95 E-HL9 ELITE	CUE-D300 DUO-C190 DUO-C95 E-HL10DS CUE-D75 E-HL9S ELITE-S

※ Imicro-98/Imicro-150/A-Vmicro2はパワーリンクできません。

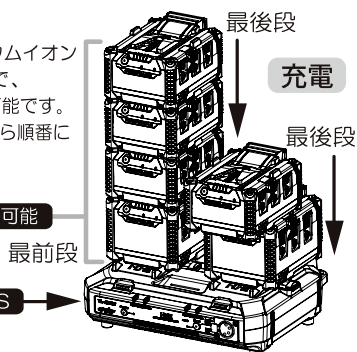
アナログバッテリー(通信機能なし)をPowerLinkするとIPLバッテリーの残量LEDが1回点灯し、デジタルバッテリー(通信機能あり)バッテリーをPowerLinkするとIPLバッテリーの残量表示LEDが2回点滅します。

- 接続機器への放電は最後段から行われますが残容量が低下すると前段へ替わります。また、最後段がIPL-98/IPL-150以外のIDX製Vマウントアナログバッテリーの場合、接続機器の負荷が大きい場合は最後段以外のバッテリーからも放電することがあります。

- PowerLink充電に対応した弊社リチウムイオン充電器(VL-2000S)を使用することで、PowerLinkしたまま充電することが可能です。PowerLinkしたバッテリーは最後段から順番に充電されます。

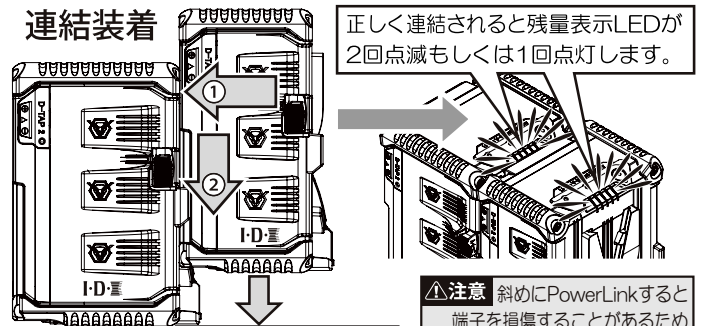
片側Ch 最大4個までPowerLink充電可能

弊社リチウムイオン充電器 VL-2000S



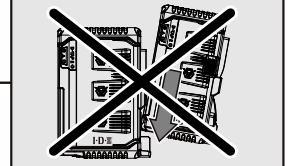
PowerLink | 連結装着/取外し方法

連結装着

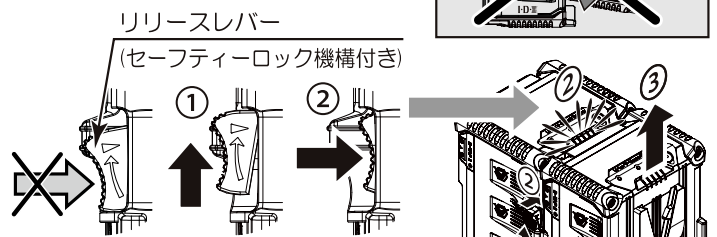


- PowerLinkするときは、バッテリー同士を密着させた状態で垂直下方向に「カチッ」と音がするまでスライドします。

⚠注意 斜めにPowerLinkすると端子を損傷することがあるため正しく装着させてください。



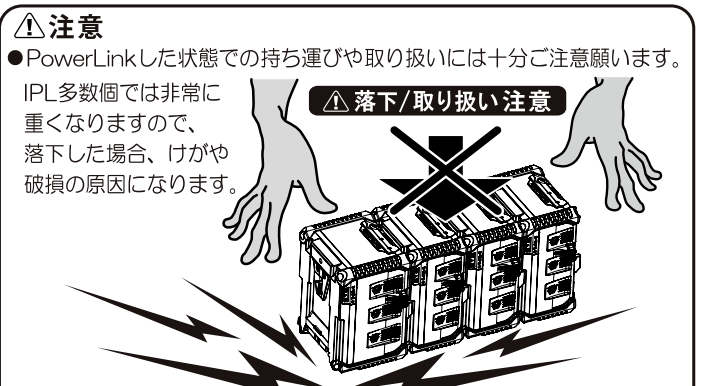
取外し方法



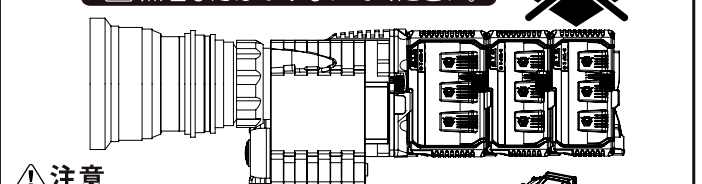
- 取外す際は、
① リリースレバーを上側に押し上げてから、
② 本体側に押し込むと、残量表示LEDが点滅し、後段側のロックと接続を解除します。
③ 手前のバッテリーを垂直上方向に、取外してください。

PowerLink | セーフティーロック機構付き リリースレバー

- PowerLinkした状態で移動使用の際、不意に障害物に衝突した場合等にリリースレバーが押され簡単に脱落することを防止するため、IPLは外しやすさを阻害しない程度の水平状態では押し込めない、安全性を考慮したセーフティーロック機構付きのリリースレバーを採用しています。



⚠ 無理な力はかけないでください。



⚠ 注意

- PowerLinkした状態で機器に接続している場合は、最後段のバッテリー交換時に無理な力をかけると機器のマウント部分の破損等に繋がりますので、取扱いには十分注意してください。

⚠ 無理な力はかけないでください。

D-Tap

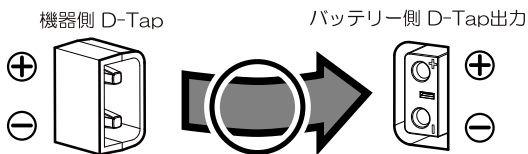
- 本バッテリーはD-Tapが2カ所あり、1カ所あたりの最大出力は80Wとなります。ただし、バッテリーの最大放電電力に注意してご使用ください。
- D-Tapはバッテリー電圧をスルー出力します。
- D-Tapは弊社のポータブルライトや省電力モニターへの電力供給が可能です。
- メインコネクタで充電中はD-Tapを使用しないでください。充電器によっては充電が完了しない場合や充電エラーが発生したり、破損する場合があります。
- D-Tap2から充電する際は必ず弊社D-Tap専用充電器(VL-DT1)を使用してください。ただし、メインコネクタから充電中、PowerLink中、放電中はD-Tap2から充電できません。
- D-Tap1 / D-Tap2で放電開始時はそれぞれのLEDが2.5秒間点灯します。
- チェックボタンを押した時にD-Tap1 / D-Tap2それぞれのLEDが点灯している場合は使用可能です。しかし、保護が作動して出力していない場合LEDは点灯しません。この場合チェックボタンを3秒以上長押しするか充電することで保護が解除できます。

保護解除方法

チェックボタン	E	残量表示LED			F	表示/操作設定
3秒以上	●	●	●	●	○	容量表示 保護解除

●点灯 ○消灯 ●点滅

- ⚠ **注意** バッテリー側D-Tap出力と機器側D-Tapの⊕⊖極性をよく確認して接続してください。



機器側D-Tapとバッテリー側D-Tap出力の形状と⊕⊖極性が合うように差し込んでください。合わないまま無理に入れないでください。

USB

- USBはDC5V/2.3Aの電源供給が可能です。
- USBの接続にはA-typeケーブルをご使用ください。
- USBのONは残量表示チェックボタンを3秒以上長押しします。
- USBのOFFは機器を取り外してから30分後に自動的にOFFします。
- 充電中はUSBを使用しないでください。充電器によっては充電が完了しない場合や充電エラーが発生したり、破損する場合があります。
- USBのデータ線はご利用できません。
- USBは5V出力専用です。外部からの電圧印加はしないでください。
- 放電開始時はLEDが2.5秒間点灯します。
- チェックボタンを押した時にLEDが点灯している場合は使用可能です。保護が作動して出力していない場合LEDは点灯しません。この場合チェックボタンを3秒以上長押しするか充電することで保護が解除できます。

保護解除方法

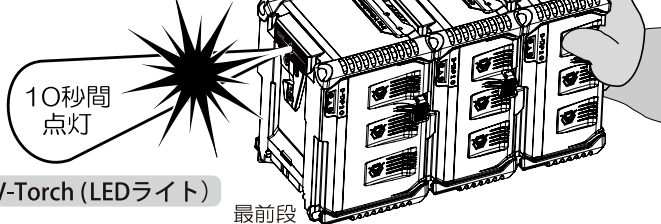
チェックボタン	E	残量表示LED			F	表示/操作設定
3秒以上	●	●	●	●	○	容量表示 保護解除

●点灯 ○消灯 ●点滅

また、異常な電圧を検知した場合、LEDは点滅して出力はOFFします。

V-Torch (LEDライト)

- チェックボタンを2度押しすると10秒間背面のLEDが点灯します。10秒後に自動的に消灯します。
- 点灯中にチェックボタンを2度押しすると消灯します。
- V-Torch点灯時は光源部分を直視しないでください。
- PowerLink中にチェックボタンを2度押しすると最前段のIPLバッテリーのLEDが点灯します。



V-Torch (LEDライト)

最前段

DISCHARGE LED

- 放電開始時にDISCHARGE LEDが2.5秒間点灯します。
- 放電中にチェックボタンを押すとDISCHARGE LEDが2.5秒間点灯します。
- PowerLinkして放電している場合、いずれかのIPLバッテリーのチェックボタンを押すと放電中のバッテリーのDISCHARGE LEDが2.5秒間点灯します。放電していない場合は消灯または、2.5秒間点滅します。

通信設定 / MODE LED

- チェックボタン操作で、SBモードまたはIBモードに切替えることが可能です。各モードに対応した機器で使用することで残量等の電池情報が読み取れます。ただし、SBモードでSMBusに準拠しない機器に使用すると、通信障害などで機器の動作が停止したり、機器の電源が落ちたりする場合がありますので、SMBusに準拠した機器以外ではIBモードに設定してご使用ください。
- 設定可能な通信は以下の2種類です。
 - ・SBモード：SMBus通信を有する機器とデータ通信が可能です。
 - ・IBモード：IDXのBMS通信機能を有する機器とデータ通信が可能です。*出荷時はIBモードに設定されています。
- チェックボタンを押した時にMODE LEDの表示色によりモードが確認できます。
 - ・SBモード：橙色
 - ・IBモード：緑色
- モードの切替え方法
チェックボタンを6秒以上長押しします。残量表示 ⇒ USB ON表示の後にMODE LEDが点滅しますので、点滅中にチェックボタンを離して再度押すことでモードが切替わります。
- 機器と通信中はモード切替えができません。

Digi-View

- ビデオカメラには、デジタルデータを使用してビューファインダー内に残量を%(パーセント)表示できる機種もあります。これらのビデオカメラに使用すると、高精度に残量を表示することができます。
- PowerLinkで使用した時はPowerLinkしたバッテリーの上限を100%とした合計値を出力します。

Battery Management System

- 本バッテリーは、内蔵したデジタル機能[Battery Management System (略称BMS)]を利用して残容量や充電/放電履歴などの情報を、弊社デジタル表示対応機器または、パソコンで確認することができます。詳しくはデジタル表示対応機器の取扱説明書、またはBattery Management Systemの取扱説明書をご覧ください。
- BMSを利用するとバッテリーの使用履歴情報により、バッテリーの管理が容易に行えます。
- BMSのデジタルデータを使用すると、バッテリーの残量を%(パーセント)またはWhで高精度に読むことが可能です。

アクセサリカットオフ (メイン出力優先設定)

- アクセサリカットオフは、接続機器の負荷が増加した場合にD-Tap1/D-Tap2/USBの出力を停止してメインコネクタの出力を優先させる機能です。機能有効時はD-Tap: 80W / USB: 2.3A以下でも出力を停止する場合がありますのでご注意ください。
- D-Tap1/D-Tap2/USBがアクセサリカットオフで出力停止した場合は、チェックボタンによる解除又は充電により解除ができます。

保護解除方法

チェックボタン	E	残量表示LED			F	表示/操作設定
3秒以上	●	●	●	●	○	容量表示 保護解除

●点灯 ○消灯 ●点滅

- 出荷時は機能無効(アクセサリカットオフしない状態)になっています。(設定方法は「チェックボタン操作」を参照ください)
- IPLバッテリーだけのPowerLink時も機能をご利用頂けます。IPL以外のバッテリーが最後段に装着されている場合は、そのバッテリーのアクセサリ出力停止はできません。

仕様

		IPL-98	IPL-150
使用電池		リチウムイオン二次電池	
公称電圧		DC14.4V	
容量 ※1		6.6Ah/96Wh	9.9Ah/143Wh
充電電圧		DC16.8V	
最大充電電流		3.3A	4.95A
最大放電電力 ※2	≤25℃	120W/7.1A (16.8V) 10.9A (11V)	120W/7.1A (16.8V) 10.9A (11V)
	≤35℃	100W/6.0A (16.8V) 9.1A (11V)	105W/6.3A (16.8V) 9.5A (11V)
	≤45℃	80W/4.8A (16.8V) 7.3A (11V)	95W/5.7A (16.8V) 8.6A (11V)
最大放電電流 ※2	≤25℃	10.5A	11.3A
	≤35℃	8.5A	10.0A
	≤45℃	6.0A	7.5A
D-Tap ※3	バッテリースルー電圧		
	D-Tap 1カ所につき80W/4.8A (16.8V)~7.3A (11V)		
USB ※3	出力電圧: DC 5.0V		
	最大電流: 2.3A		
	コネクタタイプ: USB Type-A (レセプタクル)		
	出力電圧 OFF: 30分間 50mA以下を検出後		
放電終止電圧		11.0V	
保護機能		過充電保護、過放電保護、過電流保護、温度保護	
使用温度	充電 0~40℃ (推奨10~30℃)		
	放電 -20~45℃ (推奨10~40℃)		
	保存 -20~50℃ (1ヶ月以内)		
寸法 (mm)	89(W)×119(H)×70(D)	89(W)×119(H)×85(D)	
質量 (g)	約745		約970

※1: 弊社の容量表記は20℃時のミニマム表記です。

※2: 最大放電電力及び最大放電電流は、メインコネクタ、D-Tap 1/2、USBの合計電力及び電流値となります。

※3: アクセサリカットオフ機能有効時は仕様値以下の電力/電流でも出力を停止する場合があります。

保管

- 涼しく乾燥した場所で保管してください。
- 周囲温度が高く、長期になるほど劣化が進行します。
1ヶ月以上の長期保管をするときは0~20℃で保管することをお勧めします。
- 50℃以上になる所では保管や放置をしないでください。
- 満充電で放置や保管すると劣化が加速することがあります。

寿命

- 使用頻度が多くなるほど、満充電にしても使用時間が短くなります。このような時はバッテリーの寿命が近づいています。
- 寿命となる時期は、使用頻度、使用状態、保管状態により異なります。
- 使用頻度が多い、高負荷で使用、高温で使用や保管、満充電状態で長期保管等は寿命を短くする原因となります。
- 使用回数が少なくても過放電回数が多い場合や、過放電時間が長い場合は劣化が進行し寿命が短くなる原因となります。

記録・撮影内容の保証について

本バッテリーの不具合や故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得べかりし利益の損失等）の補償についてはご容赦願います。

バッテリーのリサイクルについて

リチウムイオン電池はリサイクルが可能です。不要となったバッテリーは、端子を絶縁テープなどで絶縁し、リサイクル協力店に持参していただくか、弊社までご連絡ください。充電式電池のリサイクル・リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCを参照してください。

(https://www.jbrc.com/general/recycle_kensaku/)

電気用品安全法 (PSE) について

本バッテリーは業務用ビデオカメラのバッテリーであり省令の対象外とされている産業用機械器具用に該当し本省令の規制対象となりません。

リチウムイオン電池の航空輸送について

リチウムイオン電池の航空輸送規則は変更されることがあります。最新の輸送規則に準拠した輸送をしてください。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

(<https://www.idx.tv/jp/support/transport.html>)

エンブレム



オリエントスズメバチ (Oriental hornet)
学名 *Vespa orientalis*

2010年に大学の研究チームはオリエントスズメバチが、太陽の光を取り入れ、エネルギーに変換することができる事を発見した。このためオリエントスズメバチは他のスズメバチと違い太陽が最も強く照らす時間帯に活発に行動する生態を持っている。体組織の色素を使って発電する過程の研究は、将来のバイオソーラー発電へ可能性の追求や、その他の生物組織による光と電気に関する興味深い研究に大きな端緒をもたらすものになるかもしれません。

IDXはオリエントスズメバチをエンブレムとして、このすばらしい生物と研究チームの発見のように常に可能性を追求していきます。

